（別紙２）

論文審査の結果の要旨

氏名　洪（ホン）　成和（ソンファ）

清末中国における民間度量衡の紊乱ぶりは、中国を訪れた外国人を通じて国外にも悪名高きものとなったが、そうした度量衡の不統一性が実際にはどの程度のものであり、また何ゆえにそのような不統一性が生じたのか、という問題について、本格的に取り組んだ研究は従来なかった。本論文は、この問題を正面から取り上げ、清代中国における民間での度量衡使用の実態を検討するとともに、国家と民間社会との双方で行われてきた度量衡管理の様相を分析し、それを通じて清代における市場秩序の性格を明らかにしようとした研究である。

第一章では、清代の度量衡制度について概観し、国家による法規定、民間における度量衡使用、及び官僚・知識人による度量衡論に関して、大きな視点からの見取り図を示す。第二章以下では各章ごとに特定の地域を取り上げ、異なる角度から具体的な検討を行っており、江南（長江下流デルタ地帯）における地方政府及び商工業団体による度量衡管理の展開（第二章）、湖北・湖南における地域構造に即した度量衡の空間的差異（第三章）、四川省重慶における度量衡をめぐる紛争とその解決過程（第四章）といった諸問題がそれぞれ分析されている。これらの分析をふまえて著者は、清代中国における民間度量衡の不統一性の背景として、市場の孤立分散性よりもむしろ、広域的な交易の広がりのなかでそれぞれの商品・業種に固有のネットワークが重なり合っている市場構造の特質を指摘し、また、民間度量衡が地方政府によって領域的に統一されることなく業種ごとに民間団体による管理努力がなされてきたことのなかに、当時の状況に即した主体的な市場秩序の形成という側面を見出す。

本論文は、清代中国の民間度量衡について初めて正面から分析を行った世界的にみても独自性をもつ研究であるのみならず、清代民間度量衡の不統一性を単なる「カオス」と見なしてその前近代性を指摘するのでなく、むしろその不統一性を作り上げた固有の論理を探究しようとした点で、通説的な把握と異なる新味ある見解を示している。さらに、地方裁判文書、同業団体の碑文、清末の各種調査から小説に至る様々な史料を積極的に用いて清代民間度量衡使用の実態を具体的に明らかにしようとした努力も、特筆に価するものであって、本論文は、今後清代の度量衡を論ずる際には必ず参照すべき業績といえよう。

本論文の分析にはやや粗さも見られ、また、度量衡の不統一をもたらした内在的論理の探求という点で、より全面的・根本的な考察の余地も残されている。しかし本論文は、民間度量衡というユニークな視点から中国の市場秩序の問題に取り組んだ労作として評価できるものであり、よって、本審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位に相当するものと判断した。